

道

～道はいい 道は大好きだ 道を歩いていこう～

アニメ「ほのぼの」のセリフです。

保護者の皆様、こんにちは。コロナ禍におけるゴールデンウィークでしたが、いかがお過ごしでしたでしょうか。中学校において道徳が「特別の教科 道徳」として本格的に教科化してから約2年が経ち、この東中学校でも様々な取組を行ってきています。今年度は、そんな東中学校における道徳教育の在り方や具体的な取組、そしてそういった活動を通して見られる生徒たちの様子について保護者の皆様にお伝えするべく、月に一度（4月と8月を除いた年間10回）、この道徳通信を発行していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

東中学校の道徳授業実践について

最初の発行となる今回は、東中学校で基本的にどのように道徳の授業実践が行われているのかについてご紹介します。

①ローテーション授業

道徳科の授業は、「学級担任が実施する」というのが以前からの一般的な考え方ですが、最近では学年内の複数の教師がそれぞれ一つの題材を担当し、順番に全クラスでその題材の授業を行うというローテーション授業が多くの中学校で取り入れられていて、東中学校でもここ数年、積極的に実践されています。ローテーション授業のメリットは、第一に「授業内容にこだわるができる」点にあります。一定期間複数回行うことが前提だからこそ、時間をかけて教材研究を行い、必要に応じて授業改善を図りながらよりよい授業実践を目指すことができます。第二のメリットとしては「様々な視点で授業や生徒の様子をとらえることができる」点です。東中学校では1学期については、ローテーション授業を行う際にその時間に授業のない教師は他の教師の道徳授業を見学します。その中で、教師同士が互いに授業の進め方についてアドバイスをし合いながら、普段の授業とは違った生徒の様子を目にすることで生徒理解を深めるように努めています。

②「振り返りシート」の利用

道徳科では、毎回、授業の最後に生徒が「振り返りシート」の記入を行っています。記入内容としては、「自分の考えを深めることができたか」「新しい発見・気づきがあったか」「自分と重ねて考えることができたか」「話し合いに積極的に参加することができたか」の4項目について自己評価を行った上で、授業内容を通しての感想や考えたことなどを自分なりに記述します。「道徳」というと、とかく「こうあるべき!」という価値の押しつけ的な印象がありますが、現在の道徳科が目指すのは画一的な価値観を身につけさせるのではなく、生徒一人ひとりが自分自身と向き合い、様々な道徳的諸価値について「自分はどうか」という自分らしい道徳性の育成と、多様な考え方を認め合う相互理解の姿勢が大切にされています。そういった意味で、毎回の授業で「自分が何を感じ、考えたのか」を記録し、各学期の終わりに「振り返りシート」を読み返しながら特に印象に残った授業について再び「新たな発見や気づきとなったこと」などについて考えて記述し、まとまった期間の中での自分自身の変容を自己認知します。そしてまた、そういった変容の記録をもとに通知表の「特別の教科 道徳」の評価を作成し、保護者の方々に生徒の学習の状況や成長の様子をお伝えしています。



☆次回は、「東中学校の道徳教育において重視している内容」にてついでにお伝えします。